

京都市台北情報拠点レポート(2019年6月・7月分)

1 統計

○訪日旅行者数(台湾)

・2019年6月 461,100人(2018年6月 456,895人)(伸率 0.9%)

・2019年7月 459,200人(2018年7月 460,473人)(伸率 -0.3%)

※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内ホテル対象宿泊延べ人数(台湾)

・2019年6月 25,744人(2018年6月 28,523人)(伸率 -9.7%)

対象施設数:57ホテル

・2019年7月 25,685人(2018年7月 30,484人)(伸率 -15.7%)

対象施設数:58ホテル

2 市場動向

〔観光市場全体動向〕

6月20日に始まったエバー航空の客室常乗務員ストライキは、7月6日、会社側と客室乗務員が加入する労働組合の交渉が合意し、10日に終了することが決まった。今回のストライキは最大で約2300人が参加、同日までの計17日間で、計1439便が欠航、27万人余りに影響が広がった。旅行会社側でも1301本の団体ツアー、計3万人以上が影響を受けた。7月20日に運航が完全に正常化。台湾の航空史上で最大のストライキだと報じた。エバー航空の運航が正常になってから、ストライキ後のイメージと損失を挽回するには、エバー航空は各路線の値下げ対策を打った。チャイナエアラインも合わせて値下げを行い、顧客を獲得した。旅行業者のezTravelでは、エバー航空の問い合わせが多かったが、ストライキ前の好調な状況に戻るには時間は必要。ライオンは夏休みのFIT商品と団体商品の売れ行きはストライキ前とはあまり変わらない、とした。

一方、交通部観光局の統計資料によると、今年1-6月上半期の出国人数は2.63%成長、860万人を突破した。目的地別出国者数の1位を占めてきた日本はトップを維持したが、去年同期より1.05%減で、計249.89万人。前年同期より大幅成長したのはアラブ首長国連邦(97.66%、計7.14万人)、フィリピン(30.6%、計16.01万人)、ベトナム(27.81%、計40.16万人)。台日間の運航便数の多さ、エミレーツ航空の割引宣伝効果、ベトジェットエアなどLCCの就航、またはアイランドリゾート旅行の魅力がそれぞれの成長に関連していると考えられている。

インバウンドでは、中国は8月1日から台湾への個人旅行禁止を表明し、観光局の統計による、下半期観光収益は20億台湾ドルの損失となる見通し。中国観光客の減少に対して、交通部観光局は、9月から秋冬宿泊助成プランの実施で対応する。団体旅客に最大1人1000元、FIT旅客に日曜から金曜の間、宿泊施設に泊まれば1部屋当たり1000元、12歳以下の子供に遊園地1回入場無料などの補助を打ち出した。

〔訪日市場動向〕

JNTO は訪日外国人の成長は緩和傾向があったと発表した。1-6 月の訪日者数は前年同期比 4.6%増の 1663.36 万人と過去最高を記録したが、成長率は前年同期の 15.6%より大幅に下回った。市場別にみれば、中国は個人査証の発給要件緩和の効果で、1.7%増の 453.25 万人で、訪日者数はもっとも多かった。韓国は韓日関係の悪化が訪日意欲に影響したため、前年同期より 3.8%減の 386.27 万人。3 位の台湾は同期約 1%の減で 248.08 万人となった。航空会社と旅行業者に関しては、台湾-日本間には 37 本の定期路線があり、毎週 690 便が運航。総便数は中国-台湾間を上回って 1 位となった。夏休みの販売が前年同期に比べて盛り上がりを見せなかったのは、今年は連休が多く、日本へ旅行できる時期が夏休みに集中せずに他の連休に分散されたことが理由との指摘もある。ライオン、五福、東南など大手旅行会社での日本への旅行は、2013 年の 234.6 万人から 2018 年の 482.59 万人まで増加し、日本への旅行ブームは長期的に成長を続けている。

また、2018 年日本各都道府県の国・地域別外国人延べ宿泊者数構成比で、台湾は 20 県で 1 位と分かった。台湾がトップだった都道府県は地方が中心で、特に岩手県では外国人延べ宿泊者数の 60%を台湾が占めた。地方都市が台湾で多くの観光プロモーションや誘客対策を実施していること、地方空港の就航、または台湾人のリピーターの増加などが、地方都市が伸びた要因だと考えられる。

〔訪日台湾旅客数推移〕

訪日台湾旅客数推移		
	JNTO 数値	台湾交通部観光局数値
	成長率(%)	成長率(%)
2019 年 5 月	426,500	427,773
	-3.1%	-4.81%
2019 年 6 月	461,100	475,027
	0.9	3.29%
JNTO: Japan National Tourism Organization		
交通部観光局: Tourism Bureau, M.O.T.C. Republic of China		

〔関空の定期便の動向〕

関空定期便利用状況 出国入国状況合計				2019 年 5 月	
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	363	94,046	75,791	80.6
	エバー	310	72,896	61,551	84.4
	キャセイ	62	18,180	14,636	80.5
	ジェットスター・アジア	106	19,080	16,928	88.7
	フィリピン	26	5,174	3,882	75.0

	タイガーエア台湾	150	27,000	21,227	78.6
	JAL	62	8,928	8,084	90.5
	ピーチ	247	44,460	39,412	88.6
	エアアジア X	36	13,572	8,766	64.6
	バニラエア	14	2,520	2,287	90.8
	スクート・タイガーエア	34	11,560	8,650	74.8
	合計	1,410	317,416	261,214	82.3
関空定期便利用状況 出国入国状況合計 2019年6月					
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	352	92,489	81,539	88.2
	エバー	257	63,862	55,314	86.6
	キャセイ	60	18,374	16,505	89.8
	ジェットスター・アジア	104	18,720	17,747	94.8
	フィリピン	28	5,572	4,296	77.1
	タイガーエア台湾	146	26,280	23,270	88.5
	JAL	60	8,640	8,334	96.5
	ピーチ	240	43,200	40,304	93.3
	エアアジア X	33	12,441	9,845	79.1
	スクート・タイガーエア	60	10,800	9,743	90.2
	合計	1,340	300,378	266,897	88.9